

国土審議会政策部会国土政策検討委員会
地域戦略検討グループ（第2回） 議事概要

1. 日時

平成22年10月27日（水）13:00～15:00

2. 場所

中央合同庁舎2号館13階国土計画局会議室

3. 出席委員（五十音順）

大川陸治委員、奥野信宏委員長、関根千佳委員、辻琢也委員、戸田敏行委員、
根本祐二委員、橋田紘一委員、宮脇淳委員

4. 議事概要

(1) 開会

(2) 議題

【関係者からのヒアリング】

○内発的地域戦略の取組（三遠南信地域連携ビジョン推進会議・歴史街道推進協議会）について、戸田委員、井戸智樹氏からそれぞれ説明。その後、意見交換。

<三遠南信地域連携ビジョン推進会議>

○一部事務組合と違って、活動が多岐にわたる点と県境を跨ぐ点が特徴であるが、遠州や南信州と比較すると、東三河はまとまりにくい印象がある。浜松は合併して政令市に、南信州は広域連合の動きがあったが、東三河にはこういった動きがなく、広域自治のあり方について結論がでておらず、まとまりがないのが現状。

○広域的な活動を進める上で議会との関係が問題となってくるが、中心3市の議会は好意的である。お金を拠出することになると、議会間で差異が出てくると思われるが、自分たちが意思決定をする意欲を持ってもらうことは重要。

○最終的には広域連合や事業組合的な組織体を目指すべきという意見もある。一方、NPOになるべきという考え方もあったが、事務局を構える段階でトーンダウンした。今までの組織形態では合致するものがなかったため、今回のスキームにある準行政主体というのは非常に魅力的。

○活動を踏まえた論点は以下の4つではないか。

①県を意思決定の中に入れるのかでスキームが変わってくるが、迅速性の観点から3市を中心とし、県はオブザーバーとして参加してもらうのがよいのではないか。

- ②活動の内容について、議会には包括的な合意をしてもらい、内部の執行体制は自由度を持たせてもらう形がよいのではないか。
- ③民間が参画するには事業性が必要だが、道路等に代わる大きな事業性を持つプロジェクトがありうるのか。
- ④連携によるインセンティブを参画団体に与えるにはどのようなスキームがよいのか。

<歴史街道>

- 関西広域連合には様々な課題があるが、関西全体の広域的な連携の可能性の1つと言える。
- 関西が発展するために活動を全国的に展開したいが、会員の半数ぐらいになぜ別地域のことまでやらなければいけないのかと反対されるのが実情。
- 準行政的機能を持つことができれば大きな変化がおこり、今までの事業を更に拡大することができる。
- 広域的な活動において、「我こそ」というそれぞれの県の気持ちが出てくるのは避けられないが、その際、活動トータルの平等性に配慮し、利益をいかに分配するかが重要。
- 活動を進める上で地方整備局の果たす役割は大きく、廃止すべきでないと考えている。今後、地方分権が進むと、広域行政がどのように扱われるのかという点において疑問がある。

(3) 閉会

(速報のため、事後修正の可能性あります。)